

# NEWS LETTER



岩手大学  
岩手県立大学・岩手県立大学盛岡短期大学部  
岩手県立大学宮古短期大学部  
岩手医科大学  
富士大学  
盛岡大学・盛岡大学短期大学部  
放送大学岩手学習センター  
一関工業高等専門学校

～ 岩手の復興を人材育成から、今こそ連携の力で！～

2023.Mar  
No. 29

## Index

- ご挨拶 P.1
- トピックス P.2～4
  - いわて高等教育コンソーシアムシンポジウム
  - 地域リーダー育成プログラム「地域を担う中核的人材」認定証授与式
  - いわて学
  - 危機管理と復興
  - 高大連携・ウィンターセッション
  - FD・SD 研修会

## ご挨拶

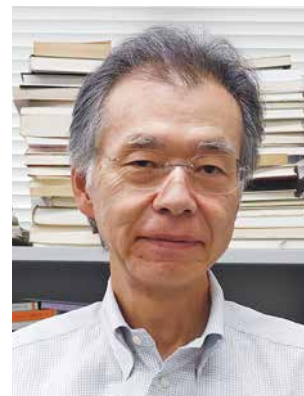
巻頭の「ご挨拶」は、新たに役職につかれた方々など、フレッシュな面々が登場するのですが、今回は逆パターンで、平成20年の「いわて高等教育コンソーシアム」(以後「いわてコンソ」) 発足から生息して化石化しつつある自称世話役の出番となりました。

いわてコンソは、当初、文科省の補助金を受けて、教育研究環境の基盤整備を行い、ハード・ソフトの両面で今日に繋がる体制作りを行いました。3年間の補助金終了後に東日本大震災が発災、さらに5年間の補助金(平成23～27年)を受けて、震災復興活動に注力することになりました。復興活動も一段落した後、地域リーダー育成プログラム(平成27年～)の推進と大学進学率の向上に軸足を移し、いわてコンソ発足から10年間の活動総括をまとめ(平成30年)、将来ビジョンを策定して(平成31年)、新たなフェーズに入った途端に、新型コロナのパンデミックが世界に広がり(令和2年～)、諸活動が制限される事態になりました。

とはいえ、本年度は地域の次代を担う中核的人材(地域リーダー育成プログラム)として2名の学生(岩手大、盛岡大)を認定することができました。コロナ禍でいろんな制約がある中、地域課題解決プロジェクトを遂行して実績を残した学生たちの底力を見せつけられた気がします。また、本年度のシンポジウム(2/4:一関文化ホール)でも、学生(一関高専)の起業が増えているとの紹介がありました。学生が主役の時代がすでに来ています。

単位互換・高大連携推進委員会に位置づけられている「大学進学率向上に関するプロジェクトチーム」では、これまで教員が高校へ出向いて説明会を行っていたのですが、一関高専の荒木校長からのご提案のように、学生に任せて、学生目線で自由な発想を取り入れたアピールをしてもらおうと、ダイレクトに高校生に響くと思われれます。

いわてコンソの今後の諸活動に学生パワーをどれだけ取り入れることができるかで効果が激変する可能性があります。新たな時代は若者が担いますし、どのような世界を創り上げるのかも含め、若者に任せることが肝要でしょう。試行錯誤はあるでしょうが、それが自覚を持つ早道になりそうです。



いわて高等教育コンソーシアム  
単位互換・高大連携推進委員長  
岩手大学 人文社会科学部  
教授 後藤 尚人

## 令和4年度 いわて高等教育コンソーシアムシンポジウム 「これからの地方創生を担う人材の育成について」

令和4年度いわて高等教育コンソーシアムシンポジウムは、「これからの地方創生を担う人材の育成について」をテーマに、令和5年2月4日(土) 一関文化センター中ホールを会場として開催されました。本シンポジウムは新型コロナウイルス感染症の影響により3年ぶりの開催となりました。

基調講演では、一関高専の卒業生でセルスペクト株式会社の代表取締役兼 CEO を務める岩淵拓也氏を講師にお招きし、「地方創生のエッセンス:高等教育に期待する新しい役割」と題して、地方創生の社会課題全般の解決を諮るための取り組み等について、SDGs や様々な事例を交えながらお話いただきました。

また、コンソーシアム構成校からは、今回のテーマに則した人材育成について各大学等の取り組み状況の報告が行われ、続くパネルディスカッションでは、各大学等の報告を踏まえた将来展望についての意見交換が行われました。

最後に各大学長等から一言ずつコメントをいただき、今後の取り組みに向けての情報共有が図ることができ貴重な機会となりました。



基調講演



パネルディスカッション

## 地域リーダー育成プログラム「地域を担う中核的人材」認定証授与式

平成27年度から開始されている、いわて高等教育コンソーシアム「地域リーダー育成プログラム」では、平泉や賢治らに育まれた共生の思想(人と自然との共生、万物の共生)を尊び、地域全体を思いやるリーダーとして、コーディネート力を備え、多様な領域・局面で地域の中核を担う人材の育成を目指しております。

当プログラムは、いわてコンソ連携校(単位互換協定校)の学生を対象にしたもので、あらかじめ指定された地域課題や復興に関わる科目(コア科目)の必要単位(4科目8単位以上)を修得し、さらに地域の課題解決策を学生たちが主体的に考え実行する「地域課題解決プロジェクト」を遂行した学生のうち、審査に合格した学生に対して、「地域を担う中核的人材」認定証を授与しております。

今年度は、プログラム開始以降6人目となる「地域を担う中核的人材」認定者が決定し、コンソーシアム連携校の学長、校長及び所長同席のもと認定証授与式が執り行われました。



認定者(大藤俊介さん)といわて高等教育コンソーシアム連携校の学長、校長及び所長

### 【認定証授与者】

盛岡大学 文学部 社会文化学科3年 大藤 俊介 さん

### 【認定証授与式】

日時：令和5年2月4日(土) 12時 場所：一関文化センター 展示室

### 【認定学生の紹介】

このたび、地域を担う中核的人材に認定された大藤さんは、1年次の終わり頃から数名の有志とともに盛岡市の中津川流域エリアでの活動を志し、「中津川エリア活性化プロジェクト：コンヤ、行こっか。」に取り組んできました。本プロジェクトは、盛岡市の歴史的にも文化的にも魅力的なエリアである中津川流域、特に紺屋町周辺の存在を知らない県内学生が多いことを危惧し、学生たちに魅力を伝え、足を運びきっかけを創出することを目的としたものです。当初は新型コロナウイルス感染症の流行により、目立った活動ができませんでしたが、そのような中、大藤さんは中津川流域の魅力発掘のために地道な調査を続けてきました。課外活動に制約を受けている間は、中津川流域の歴史や建造物についての文献調査を続け、学生向けに発信するための方法を模索し、zoom や Slack などのデジタルツールを活用して議論を行いました。

2年次の半ばからは、学生が足を運びきっかけとして、学生の多くが利用している Instagram と連携したマップの作成に取り組み始めました。このマップは、中津川流域エリアの歴史的建造物や歴史ある商店、特徴的な飲食店などと学生とを、Instagram を通してつなぐことを目的としたものです。そのため、マップに情報を詰め込むのではなく、Instagram への誘導を促すためのハッシュタグ等を中心とした作りになっており、ここにこのプロジェクトの活動のオリジナリティがあります。同時に、Instagram を用いた「コンヤ、行こっか。」の情報発信も開始し、2022年5月の時点で、425人のフォロワーを獲得しています。さらに、マップの製本作業や今後の活動の協力者を集めるために、2021年12月にチラシを作成し広報活動を行い、4人の新しい仲間を獲得することに成功しています。作成したマップは、手作業による製本作業を行い、岩手大学や盛岡大学の学生、協力していただいたお店や施設に配布しました。

このように大藤さんは、「新型コロナウイルス感染症蔓延防止のための活動制限」という強い制約条件がかかっていたにも関わらず、常に行えることを考え、実現させるために粘り強く活動を続けてきました。このように粘り強く活動に取り組める彼の資質は、これからの持続可能な社会を作るレジリエンスを備えた人材となることが期待されます。



この度は、私が目標としていた「地域を担う中核的人材」認定証を頂戴し、誠に光栄に思います。大学1年生の頃に「コンヤ、行こっか。」が始動し、コロナ禍の中で苦労しましたが約2年間活動を続けることができました。

活動の中で、特に力がつくと実感することは交渉力です。マップ作成時に、紺屋町境界のお店へ直接掲載許可を取りに伺いました。活動の経緯や、マップの構想などを端的に話すことを心がけた結果、お店の方々は掲載に快く承諾してくださいました。何度も何度もお店に向かっていくと、日常的な話などでもできるようになり、交渉力が身についたことを実感しました。

この経験を今後の糧にし、地域づくりにより一層邁進してまいります。

盛岡大学 文学部 社会文化学科3年 大藤 俊介

いわて高等教育コンソーシアムでは、地域の中核を担う人材の育成に向け「地域リーダー育成プログラム」を継続していきます。



## コア科目(必修)後期集中講義「いわて学」

いわて学Bの担当大学である県立大学において、今年度新たに「文理融合データサイエンス教育プログラム」が開始され、いわて学Bも当該プログラムの1授業に位置づけられました。そのため、現地で学ぶ機会を取り入れてきた従来のいわて学Bとは方針を変え、「データを活用・分析して、岩手の強み・弱みを明らかにし、これからの地域発展における課題を考えることができる」を学修目標の1つとしました。採用した学習内容・方法は、①データサイエンスの基礎を学ぶこと、②データを活用した岩手県の諸領域の理解の事例(県大5教員によるオンデマンド教材)を学ぶこと、③実際にデータを活用・分析し、地域課題についてプレゼンテーションをすることでした。

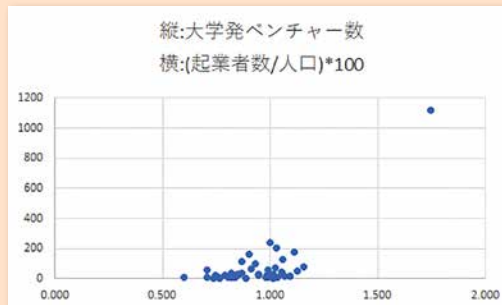


プレゼンテーションに向けたグループワークの様子

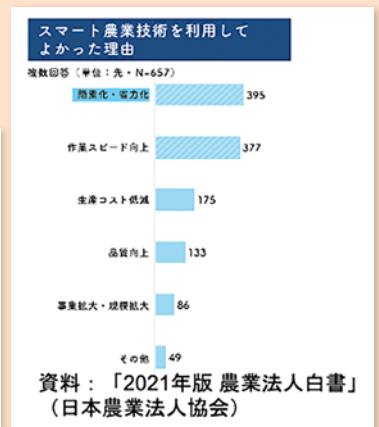
③では、2グループが独自のテーマ(「岩手県の起業家育成」「岩手県の農業活性化」)を立て、3回のグループワークとプレゼンテーションを行いました。学生たちは国や県のまとめた報告書類や統計資料、また、様々な団体が調査した各種データを収集・分析し、論理的に地域課題を導き出していたようです。

しかし、フィールドワーク中心と考えていた学生が多く、履修登録をした学生の約半数が履修を取り消し、最後まで履修を継続したのは7名(岩手大学2名・県立大学5名)だけでした。

データサイエンスは現在様々な領域・職業で求められ始めており、その趣旨と必要性、それによる地域理解の意義を浸透させていく必要がありそうです。



学生が収集・分析したデータ・資料例



## コア科目(選択)後期集中講義「危機管理と復興」

「危機管理と復興」は、危機管理や災害時の医療、防災、都市造りなどについて学び、様々な状況に対応し得る能力と知見を修得することを目的とした講義です。

今年度の講義は、10月29日(土)～12月10日(土)の期間で全7回(1回2コマ)実施し、受講者は24名(岩手大学22名、盛岡大学2名)でした。

講義は、教訓から学ぶ危機管理を始め、災害医療、防犯、石碑から学ぶ災害の歴史、防災教育、震災遺構など幅広い内容をテーマにして行われ、担当講師による座学のほかにグループワークを多く取り入れ、互いの意見共有などを通して学びを深めました。また、コロナウイルス流行のため、関西大学城下英行先生の講義「防災教育を考える」を2年連続オンラインで行っていましたが、今年度は3年ぶりに対面形式で行うことができました。

現地研修では釜石市を訪れ、グループで町を探索した後、三陸鉄道(株)菊池氏によるガイドのもと、震災学習列車で釜石駅から盛岡駅までの区間を震災時の状況説明などを聞きながら、実際に見て・知って・感じることで見識を高めました。その後、いわてTSUNAMIメモリアルにて、震災映像や被災物などの展示品を見学しました。

この講義を受講した学生からは、「医療面や伝承など様々な方面から災害を知ることができた。」「災害時にいかに素早く多くの人を救う行動がとれるのか、後世にどう伝えていくかの難しさが印象に残った。」「これからの次の世代に日本の自然災害の情報を伝え、新しい災害文化を作る等、課題も多いことがわかりました。」などの感想が寄せられました。

短期集中ではありましたが、学生が知見を広げ現状の課題を考えることで、今後の危機管理に活かせる講義になったのではないのでしょうか。



クロスロードカードを使用して議論する様子



現地研修・震災学習列車(恋し浜駅にて途中下車)

## 令和4年度 高大連携・ウインターセッション

ウインターセッションは、県内の高校生が大学教育に対する理解を深め、明確な進学意識を確立することを目的として、毎年12月に実施している事業です。長期化するコロナ禍で令和2年度より開催を中止していましたが、今年度はオンライン形式ではあるものの3年ぶりに開催し、各大学における学部ごとの授業体験を12月26日(月)に、全体会を27日(火)に実施しました。

この全体会では、人文・社会科学分野、理学・工学・農学分野、医学・歯学・薬学分野に分けて、大学における学修内容を分野別に説明し、大学教育の全体像の理解を図りました。参加した高校生は844名(令和元年度は900名)で、皆、大変熱心に受講してくれました。

ウインターセッションで得られたことを将来の進路選択に、ぜひ活かしていただきたいと思います。

### 全体会(プログラム)

[第一部] いわて高等教育コンソーシアムによる 「大学における分野別学習内容の紹介」(1)～(4)	
(1)「これからの大学進学」	岩手大学 理事特別補佐(教育改革担当) 人文社会学部 教授 後藤 尚人
(2)「人文・社会科学分野」	岩手県立大学 社会福祉学部長 教授 高橋 聡
(3)「理学・工学・農学分野」	岩手大学 理工学部副学部長 教授 小林 宏一郎
(4)「医学・歯学・薬学分野」	岩手医科大学 医学部 教授 伊藤 智範
[第二部] いわて進学支援ネットワーク事業による「進学講演会」(5)	
(5) 進学講演会	河合塾 東北営業部 部長 高橋 草



全体会「理学・工学・農学分野」の紹介 岩手大学 小林教授

## FD・SD研修会

いわて高等教育コンソーシアムFD・SD研修会  
卒後のプロフェッショナリズムの担保のための生涯学習を考える

**定員30名**  
コンソーシアム加盟大学全体の定員です。各大学の定員は6名程度とさせていただきます。

**日時** 2022年11月18日(金) 13:30～15:30  
**主催** いわて高等教育コンソーシアムFD・SD連携推進委員会  
**会場** 岩手医科大学 矢巾キャンパス マルチメディア教室  
**対象** いわて高等教育コンソーシアム構成校の教職員  
**講師** 鶴田 潤氏  
(東京医科歯科大学 統合教育機構 准教授)

各分野において「プロフェッショナリズム」の定義はさまざま考えられると思いますが、プロフェッショナリズム教育は、どのような職種におきましても、在学中はもちろんのこと卒業後も継続して実施していくことが必要であると考えられます。そのためには生涯学習の在り方が重要となりますが、この点については各方面でまだまだ手探り状況の中で進められているものと思います。

本研修会では、東京医科歯科大学の鶴田潤氏を講師にお招きし、東京医科歯科大学での生涯学習の実態、スキルラボの設置とその有効活用などについてご講演いただきと共に、グループに分かれて生涯学習のサポート内容について意見を出し合い、グループ間での発表・質疑応答を通じて情報交換を行います。本研修会が、生涯学習の在り方を考える良い機会となることを期待しています。

- 新型コロナウイルス感染症対策にご協力をお願いします●
- ・当日は必ずマスク着用のご参加ください。
- ・入口等にアルコール消毒液をご用意しますので、会場への入退室時ほか、研修中も適宜手指消毒をお願いします。
- ・参加を希望される方は、開催日の2週間前より自己検疫の徹底をお願いします。当日、体調不良等がある場合には、参加を諦める場合がございます。
- ・その他、会場内の換気等、感染対策への理解とご協力をお願いします。
- ・今後のコロナ感染状況によって、実施方法が変更となる場合がございますので、ご了承ください。

研修会チラシ

いわて高等教育コンソーシアムFD・SD連携推進委員会で主催しました、令和4年度下半期開催のFD・SD研修会についてご報告いたします。

去る11月18日(金)に、『卒後のプロフェッショナリズムの担保のための生涯学習を考える』と題しまして、東京医科歯科大学統合教育機構の鶴田潤氏を講師にお招きし、FD・SD研修会を開催いたしました。

講演では、歯科医師という立場から、プロフェッショナリズムの考え方、東京医科歯科大学で実践されているプロフェッショナリズム教育、生涯学習についてご紹介いただきました。また、歯科領域のみならず、他分野にも共通する考え方や課題などにも触れていただきました。各分野においてプロフェッショナリズムの定義はさまざま考えられると思いますが、プロフェッショナリズム教育はどのような職種においても継続して実施していくことが必要です。今回のFD・SD研修会がそのようなプロフェッショナリズムに関わる生涯学習の在り方を考える一助となれば幸いです。

当委員会では、今後も大学で働く教職員の皆様に有益な研修会等を企画してまいりますので、多くの皆様方のご参加をお待ちしております。



東京医科歯科大学 統合教育機構  
准教授 鶴田 潤氏

発行連絡先

いわて高等教育コンソーシアム事務局 (岩手大学法人運営部総務広報課内)

〒020-8550 岩手県盛岡市上田三丁目18-8

TEL.019-621-6855 FAX.019-621-6014

[E-mail] [ihatov5@iwate-u.ac.jp](mailto:ihatov5@iwate-u.ac.jp) [URL] <http://www.ihatov-u.jp/>